

今回は J-SHINE 資格取得後に自ら市の教育委員会学校教育課を訪問し、自己アピールされた後、市の嘱託職員として採用となり「外国語活動支援員」として勤務されている成田優子さんの実践報告となります。授業以外での子どもたちとの関わりも大事にしながら、先生や子どもたちとのより良い関係を心掛け、また J-SHINE 資格の広報にも日々取り組まれています。

2016年1月号

J-SHINE 通信



秋田県大館市出身
J-SHINE小学校英語上級指導者
秋田県大館市外国語活動支援員



成田優子 さん

■ J-SHINE 資格、上級指導者資格取得のきっかけと小学校に関わるようになった経緯

進学塾で講師として勤務し、その後独立しフリーランスの家庭教師として現在も中学生と高校生に英語を教えています。小学校 5、6 年生で外国語活動が実施されることになり、小学生の指導も始めたいと思い、2010 年にオーストラリアのシドニーで数ヶ月間、児童英語教師養成講座や J-SHINE の研修を経て小学校英語講師指導者の資格を取得しました。

帰国後すぐに、市の教育委員会学校教育課に自ら電話をし、自己アピールのために訪れ、市の嘱託職員として採用していただきました。2011 年から市の教育委員会学校教育課所属の「外国語活動支援員」として勤務しています。小学校での活動時間数や経験などの規定をクリアし、2014 年に上級指導者資格を取得しました。

■ 現在の活動状況

私が住んでいる市には現在 17 の小学校がありますが、その内の 5 校の「外国語活動支援員」として月曜日から金曜日毎日小学校を訪問しています。5、6 年生の授業はもちろんですが、月 1 回程度 1 年生から 4 年生の英語活動を実施している小学校もあります。さらに、その内の 1 校において、隔週行われるクラブ活動（5 月～10 月、年間 10 回程度）で「英語クラブ」の外務講師をさせていただいたり、PTA の研修会で保護者向けに外国語活動の模擬授業を含む講話をさせていただいたりしています。

5、6 年生の外国語活動では、学級担任 T1、外国語活動支援員 T2 のティームティーチングの形態ですが、年間数回程度これに外国人の ALT を加えた 3 人の形態で行うこともあり、打ち合わせの時は担任と ALT の通訳のような役割を担うこともあります。

毎年 4 月には教職員を対象とした「外国語活動研修会」があり、他の外国語活動支援員や ALT と共に、作成した教材の紹介やアクティビティのデモンストレーションを行っています。

■ 今後の展望、課題、目標

私は、5、6 年生が年間 35 時間の外国語活動を行い始めた初年度から「外国語活動支援員」をしておりますので、今年で 5 年目になります。毎日違う小学校で授業を行っているため、反省が必要となる場合にはその次の日にでも改善したり、新しいアクティビティを思いついたときもすぐ実践したりできる環境にいます。現状に満足することなく、子供たちのために、より良いものを求めています。つい先日、5 年生で「クイズ大会」と銘打ち、子供たちが各自作成した様々な「What's this? クイズ」を出題し合う活動を行いました。前の時間に私が「パズルクイズ」「シルエットクイズ」などいくつかの形式を提示して、子供たちに自由にクイズを作成してもらいました。写真はその時の様子です。ある児童が「シルエットクイズ」を作成したのですが、クイズの題材が都道府県になっていて、回答者である児童が「Hint, please.」と言うと、その都道府県の特産物や県庁所在地をヒントとして述べていました。社会科で習ったことを外国語活



道に活かすという発想にとっても感心しました。子供たちが私にとっていつも inspiring であると同時に、私自身が子供たちにとって inspiring な存在になれたらいいなと思います。

授業以外でも、子供たちと一緒に給食を食べたり、先生方との打ち合わせのない昼休みには5、6年生以外の子供たちとも外や体育館で一緒に遊んだりもしています。授業以外でも子供たちと積極的に関わることによって、私自身が子供たちをより理解し、そのことがアクティビティなどのアイデアに活かされることが多くなります。また、子供たちにとっても、私に対する興味が、外国語や外国の文化などに対する興味に繋がっていくようです。今後も、授業以外での子供たちとの関わりも大事にしていきたいです。



また、学級担任の先生方の外国語活動に対する考えも様々で、中学での英語へのアプローチとしての役割も期待される先生、児童間のより良いコミュニケーションの場としての役割を特に期待される先生などがいらっしゃいます。打ち合わせや、授業を行っていきながら、学級担任の先生方の思いを理解し、それに合わせたレッスンのアイデアを提供できるように心がけていきたいと思っています。

そして、最後に、残念ながら J-SHINE 資格を持っているだけでは、すぐに現場に入ることはできません。資格を有し、実際に現場で経験を積んでいる者として、広くこの資格を知ってもらえるような活動もしていきたいと考えています。具体的には、研究授業後の研究会に積極的に参加し、教育委員会や現場の教師の方々に知っていただくことや、地域の小学校の PTA 研修会での講話も今後も続け、保護者の方々にも知っていただくことにも取り組んでいくつもりです。

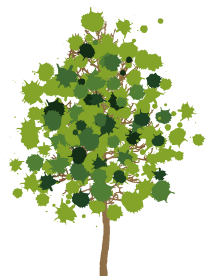


* J-SHINE 通信 Web ページ

この 2016 年 1 月号をはじめ、過去に発行した J-SHINE 通信はすべて J-SHINE の Web サイトから配信しています。

こちらからご覧ください。

<http://www.j-shine.org/tsuushin.php>



今月の花 ロウバイ